

# 「わたしのとおきの保健師活動」

(先輩保健師が後輩に伝える体験談のコーナー)

## 【 個に対する支援活動 】

Q：保健師人生の中で、「保健師らしい関わり、保健師として、一番ベストな関わり（支援）ができたなあ！」と思える印象深い事例はどんな事例ですか。またベストな関わりができたのは「みる」「つなぐ」「動かす」の観点から、どんな関わりが功を奏したと思いますか。ひとことをお願いします。

1

脳卒中後遺症の人を訪問し本人の「歩けるようになりたい」という意欲もあり、できるだけ頻回に訪問した。妻と共に歩行介助等行い杖について歩けるまで回復した。

視点

「みる」……本人の気持ち「歩きたい」に合った支援、定期的な訪問により、ケースの状況や希望を把握、問題点を整理。

「つなぐ」……主治医連絡を行い運動練習がこれでいいかどうかの指示のもと支援した。

「動かす」……できるだけ頻回に訪問する事で本人や家族のモチベーションを高める。

2

67歳独居女性（パーキンソン病）で、病気の進行に対する不安、一人暮らしへの不安将来への不安を抱えながら、地域で生活していくためにどのような支援ができるか、地域の人との協力を得ながら地域での患者会を発足させた。

視点

「みる」……定期的な訪問により、ケースの状況や希望を把握、問題点を整理

「つなぐ」……同じ疾患の患者と話し合う場の設定（同じ疾患患者を家庭訪問していた）

「動かす」……地域の民生委員、児童委員、公民館職員、自治会長に疾病について理解してもらい、声かけや買い物との協力や話し合いの場の提供、地域の人材との接点を持つておく。地域が「こんなになったらいいね」「こんな事がしたいね」と夢を語り合う仲間を増やしていったこと

3

夫婦二人暮らしで「統合失調症」治療中の女性患者の妊娠・出産・子育てへの育児支援・家族支援

視点

「みる」……疾病・障害の特性と母性の目覚めの把握

「つなぐ」……子育てのプロである保育士、所内母子保健担当保健師、市保健師・栄養士等の関係者と、本人と共に相談していった。

「動かす」……相談支援者・関係機関に精神障害者への理解を深めてもらえるよう疾病について説明し、本人の言葉を伝えたり、支援者自身の考えを聞くようにした。

4

32歳の脳性麻痺の男性、肺炎で2週間病院に入院し、仙骨部に褥瘡ができて退院。在宅療養中に褥瘡が悪化し、手掌大で仙骨が露出している状態になり相談を受けた。母子二人暮らしで、母は入院を断固拒否するため、関係機関の協力を得て、在宅のままで治癒できた。



「みる」……的確なアセスメント(家族の思いや介護力、社会資源、褥瘡、患者の状況など)

「つなぐ」……関係機関の巻き込み(医師の往診、所内栄養士、市役所保健・福祉部門)

「動かす」……家族の思い・言葉が話せない患者が表情で訴えている「在宅で生活したい」ことを、関係者・関係機関にわかりやすく伝えたこと。経過中に起こったこと、本人家族の思いや声をきめ細かく関係者に連絡し共有したこと。

5

育成医療の事例:二分脊椎の児を持つ家庭への支援の中で①児の発達支援(医療機関や療育施設の紹介)や家族支援(家庭訪問)②集団保育への支援(入園予定の保育所の保育士と医療機関を訪問し児の療育について学習する)を行うことにより、児は地域の保育所に入園、その後、地域の小学校、中学校と進学を果たす。また、両親は家族会の県の世話役となり、活動を始めた。



「みる」……育成医療名簿を分析し訪問した。病名から親のしんどさ、医療との連携をイメージする能力

「つなぐ」……同じ病気を持つ家族を紹介。家族のエンパワーのためのアプローチをイメージする能力

「動かす」……役場を動かし、保育所の担当者と一緒に大阪のリハビリ病院を訪れた。児を保育所に受け入れるための条件整備をイメージする能力

6

乳児訪問で鎖肛を発見し一命を取り留めた。今、その子は母親になっている。和歌山県との県境の山間村で、墜落分娩があったらしいと連絡が入った。訪問で、産婦は初産の為、児はポットトイレには落ちずに済んだが、トイレの踏み板の上で臍の緒を夫が切った。訪問時は、生後約1ヶ月近く経っていたと思うが「母乳を飲まない」と母親が訴えた。児は鳴き声も弱く、腹部が異様に膨満していた。受診はもちろん、出生届など何もして無かった。さらに、母親は文盲のため医療に繋がった後も、受診のための介添え役を地域の人が担ってくれた。



「みる」……保健師活動を知る住民や関係機関が、あったから協力が得やすかった。

「つなぐ」……保健所保健師の連絡で、地元医師と病院・役場・地域住民が連携して対応することになった。

「動かす」……住民が村に常設の診療所や保健師の必要性を訴え、村も設置に向けて予算措置をした。

## 【 地域に対する支援活動 】

Q：保健師人生の中で、「保健師らしい関わり、保健師として、一番ベストな関わり（支援）ができたなあ！」と思える印象深い事例はどんな事例ですか。またベストな関わりができたのは「みる」「つなぐ」「動かす」の観点から、どんな関わりが功を奏したと思いますか。ひとことでもお願いします。

**1** 担当地域の健康実態調査し、ニーズを把握することから、老人保健事業を市町村事業として位置づけ、T町が、主体的に、対人保健事業が展開できるよう支援した。保健所保健師として、新法制定時には、法的根拠のみを根拠にするのではなく、健康調査を実施することで、市民への啓発ができ、市町村の主体性を醸成できる機会になった。本事業を、生命保険会社の研究助成事業を申請することで、市町村の財政負担を軽減することができた。

**「みる」**……T市F地区の全世帯の健康実態調査を実施、健康ニーズの分析、活動課題を明確化する。（地域アセスメント）

**「つなぐ」**…健康実態調査を行うことで、地域自治会、校区内小学校、中学校、医師会に事業の説明をするなかで、調査に対する協力・理解を得る。そのプロセスの中で、保健事業に積極的に住民参加に繋がった。

**「動かす」**…調査票の項目は、地域自治会、学校関係者、医師会等の組織と協議しながら調査票を作成した。このことで、調査自体が住民が主体的に参加され、その後の保健事業計画に住民の理解が得られた。

**2** 小児慢性特定疾患の児の退院に当たり、病院の看護師長から訪問看護ステーションの紹介を依頼されたとき、ある訪問看護ステーションの管理者を説得し、病児の関わりを初めてしてもらった。その後、その訪看含め訪看の慢性疾患児への関わりが推進されていったこと。

**「みる」**……初めて接点をもつ病院の看護師長のからの依頼を大切に、事例の訪問をした。他からのアプローチを受けとめる力

**「つなぐ」**…病児の事例は経験がなかった訪看のスタッフと退院前訪問をし、在宅療養の準備をする。関係機関や関係者の情報の共有を図る力

**「動かす」**…訪看がこの事例への関わりから病児への関わりの自信を得、慢性疾患児の受け入れが進んだ。関係機関(社会資源)の力量形成を促す力

**3** 精神障害者が地域で安心して生活できる基盤づくりのため、町保健師と共に身近な地域住民への学習会の実施。

**「みる」**……管内町の精神保健福祉に関する統計や資料から見える問題の共有

**「つなぐ」**…健康づくりに関わる関係機関の声を聞く。参加者の選択を町保健師と共に検討する。

「動かす」・・・精神障害者を取り巻く環境づくりは、自分自身の地域の健康づくりにつながることを、住民一人一人の考える場となり、町全体に広がるきっかけになった。

**4** 村に派遣保健師として赴任したとき、介護保険が始まるための準備の時でした。役場各課すべてに理解と協力を得るための説明、議員や医師への説明、大字まわりで地域住民に理解を得るための説明会の開催や介護保険実施後体制整備のために医療・保健・福祉連携会議の立ち上げや、スタッフ資質向上のための勉強会の開催など、役場全体で、介護保険の円滑実施に向け一丸となって取り組んだこと。ひとつの大きな施策を実施していくための基盤づくりは、とてもやりがいがあり、関係者や住民の方達が、どんどん変わって前向きにとらえていってくれる変化を身近で体験できたことは得難い経験でした。



「みる」・・・介護保険に関する情報をタイムリーに把握し、自分なりに、具体的な地域での実施をシミュレーションできる力

「つなぐ」・・・関係者・関係機関にたいし、自分達の役割、何ができるのか何を求められているのか、何を果たすべきなのかを理解し主体的に取り組んでもらえるように、繰り返し話し合いの機会を持つ。思いは必ず伝わると信じて・・・。

「動かす」・・・成果や結果をわかりやすく提示すると、口コミや相乗効果で取り組みが広がり定着していくように思います。



H町における歯科保健に関する特別対策事業の実施～市町村支援の事例として予算の確保から、事業の実施、評価を行い、次年度の事業に継続へと発展させた。活動の対象を小学生から、最終的には、全てのライフサイクルに歯科保健対策事業を拡大させた。

- ①H町小学校の4校全ての学校保健との連携と在宅歯科衛生士の再教育をして、人材育成を行い学校歯科保健活動が実施できるよう基盤整備を図った。
- ②この事業を実施するにあたり、H町保健師とともに町内のすべての歯科医師に事業の説明することで、H町歯科医師会の組織化に繋がった。その後は、保健所やH町担当者との事業の窓口が歯科医師会として、歯科保健ネットワーク事業に参画することになった。
- ③歯科保健は地域住民の健康課題として位置づけ、ライフサイクルに対応した歯科保健事業をメニュー化し出来るよう、保健所の専門的な支援が有効に機能した。



「みる」・・・個別事例、地域の健康指標の作成及び分析力をおこない、健康課題の明確化を図ると共に、優先順位を付けて、活動目標等設定する能力

「つなぐ」・・・対象者の自立度に応じて、関係機関、関係職員との連携して支援する。

「動かす」・・・当事者を含む周辺の必要な人材を支援者にして取り組みをすすめる。

## 【保健師とは「何をする人」、「どんな人？」】

Q：保健師とは「何をする人」、「どんな人？」であると考えますか。後輩がイメージしやすいようにできる限り”ひとこと”で、”シンボリック”に答えて下さい。

① 法や制度に精通してマネジメントを行う役割の人  
保健指導のエキスパート



② 「この人の、健康で暮らす権利を、私(保健師)が守る」  
この視点がぶれると、日々の作業に振り回されてしまい、悲しい思いが愚痴になったりと、低次元の日常になってしまうと、私は思っています。

③ 「地域で生活している人」を対象に、個別あるいは集団アプローチにより関係機関と協働しながら、健康の保持増進、疾病の予防に向けて支援する。

④ 健康問題の解決策を支援する人

⑤ 地域の健康を支える人

⑥ 「地域の声なき声」を拾い上げ伝えていく、地域全体のお母さんのような人